

## 2-1-1 個別支援の方法

個別支援とは、一人ひとりの教員に対して集合研修の内容の定着を図り、日常の ICT 授業活用につなげるための支援です。

### 集合研修中に行う個別支援

ICT を使い慣れていない教員に対しては、集合研修の中では主として操作面に対する、きめ細かな技術支援を図る必要があります。

#### ○ 基本操作の定着

ICT に苦手意識をもつ教員が基本操作の定着を図れるようにするために、ICT の準備や操作場面では、ICT を使い慣れていない教員を中心として機器に触れてもらうようにします。

#### ○ 研修支援者の配置

研修中の教員をつまづきに対応して、研修内容の習得率を高めるために ICT 授業活用力の高い教員を研修支援者として各グループに配置します。

学校の実態にもよりますが、集合研修の進行をする担当者の他に、2～3名いれば効果的な個別支援体制を組むことができます。

なお、人選につきましては、当日行う研修内容はマスターできている教員を選定し、依頼するようにします。



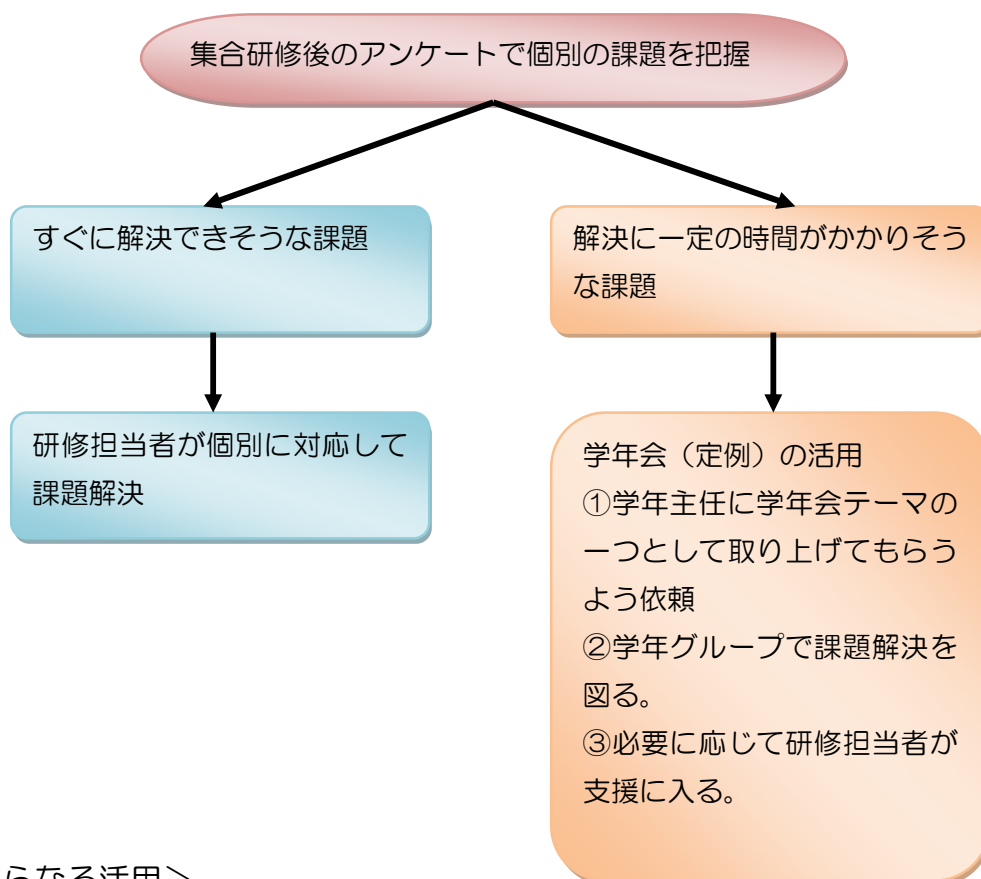
### 日常中に行う個別支援

#### ○ 日常のフォローアップ

研修で習得できなかった部分のある教員や、授業活用段階でつまづきが生じた教員の活用意欲をつなぐために、研修担当者は集合研修中の様子や研修アンケートで個々の習得状況を把握し、個別又は定例で開催される学年会等の授業打ち合わせ等の機会を利用して必要な補充を行います。

<個別支援の具体的方法例>

- ①集合研修後のアンケートで、十分に習得ができていない教員や、もっと深めたい部分がある教員を把握しておきます。
- ②些細な操作に関することなど、すぐに対応できそうな事例の場合は個別に声かけをして解決しておきます。
- ③解決に時間を要する事例の場合、定例に学年会を開いている学校であれば、学年主任に依頼して、学年会テーマの一つとして取り上げてもらいます。  
そして、学年の中で解決を図ってもらうようにします。必要であれば研修担当者も入って支援を行います。



<学年会のさらなる活用>

ICT 授業活用の日常化を図るために、学年会の授業打ち合わせの一環として、新しい単元に入る前に、ICT 活用の計画を話し合います。

どの場面で、どの ICT を、どのように使うか、打ち合わせておくことで、活用アイデアがふくらむとともに、ICT を使い慣れていない教員のスキルアップを図ることができ

ます。

その意味でも、研修担当者の方は集合研修で習得したことを充実、深化させるために、学年会での ICT 活用検討の場づくりを推進していきましょう。

